

**DMG森精機株式会社**  
**2018年度上半期(1-6月)**  
**決算説明会**  
**2018年8月8日**

## 1. 上半期(1-6月)決算概要

## 2. 事業環境

## 3. 取り組み

- ✓ 事業領域の拡大 (単価上昇、受注安定化)
- ✓ イノベーションデー盛況
- ✓ Automation・Digitization進展
- ✓ 生産能力の拡充
- ✓ 教育プログラムの強化

✓ 上半期工作機械関連受注 2,661億円 (24%増)

✓ 上半期営業利益 158億円 (75%増)

✓ 通期見通し 増額修正

	(前回発表予想)		(今回予想)
工作機械関連受注	4,700億円	▶	4,800億円 以上
売上収益	4,500億円	▶	4,700億円
営業利益	350億円	▶	380億円
営業利益率	7.8%		8.1%

✓ フリーキャッシュフロー プラス150億円 (前年同期実績 マイナス87億円)  
 純有利子負債 939億円 (2017年12月末残高 1,057億円)

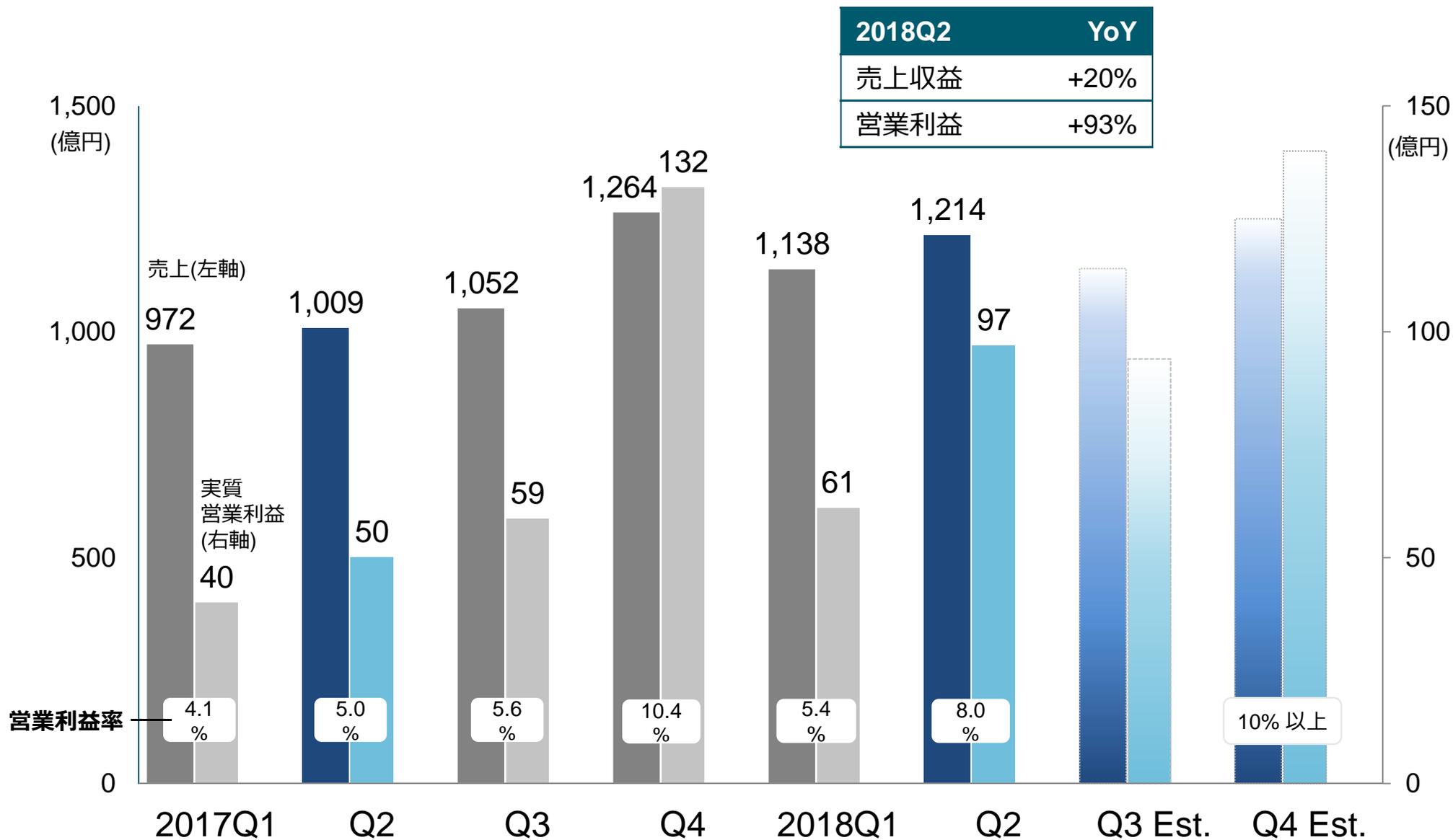
✓ オートメーション事業拡大、受注単価上昇

✓ 「東京デジタルイノベーションセンタ」開設

# 2018年 上半期(1-6月) 決算概要

# DMG MORI

(億円)	上半期(1-6月)		増減	通期予想		増減
	2017年	2018年	(%)	従来	今回	(金額)
全社受注額				5,000	<b>5,100</b>	+100
(内、工作機械関連受注額)	2,154	<b>2,661</b>	+24%	4,700	<b>4,800</b>	+100
売上収益	1,981	<b>2,353</b>	+19%	4,500	<b>4,700</b>	+200
営業利益	90	<b>158</b>	+75%	350	<b>380</b>	+30
営業利益率	4.6%	<b>6.7%</b>		7.8%	<b>8.1%</b>	
金融収支	-21	<b>-22</b>		-50	<b>-50</b>	
(うち、ドミネーション・アグリメントに伴う経済補償額)	(-10)	<b>(-11)</b>		(-20)	<b>(-20)</b>	
税引前利益	70	<b>136</b>	+95%	300	<b>330</b>	+30
当期利益	37	<b>91</b>	+2.4倍	210	<b>230</b>	+20
親会社所有者帰属利益	36	<b>89</b>	+2.5倍	200	<b>220</b>	+20
償却費	89	<b>90</b>		185	<b>185</b>	
設備投資額	38	<b>68</b>		120	<b>120</b>	
USD/JPY	112.4	<b>108.7</b>		110.0	<b>110.0</b>	
EUR/JPY	121.7	<b>131.7</b>		130.0	<b>130.0</b>	

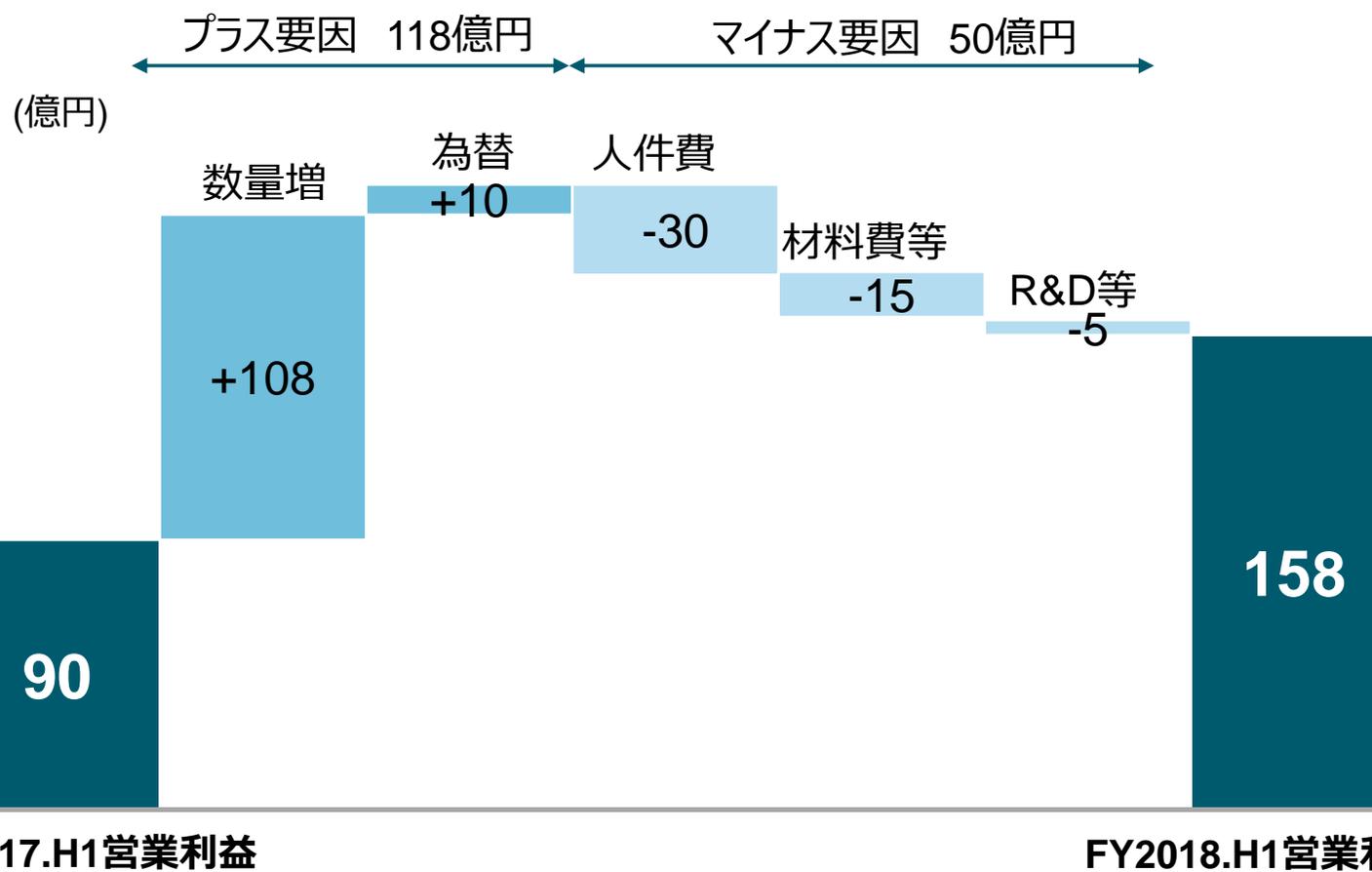


# 2018年度 上半期 営業利益増減分析 -対前年同期

**DMG MORI**

(億円)	FY2017.H1	FY2018. H1	増減
売上高	1,981	2,353	+372
数量増			+261
為替			+111

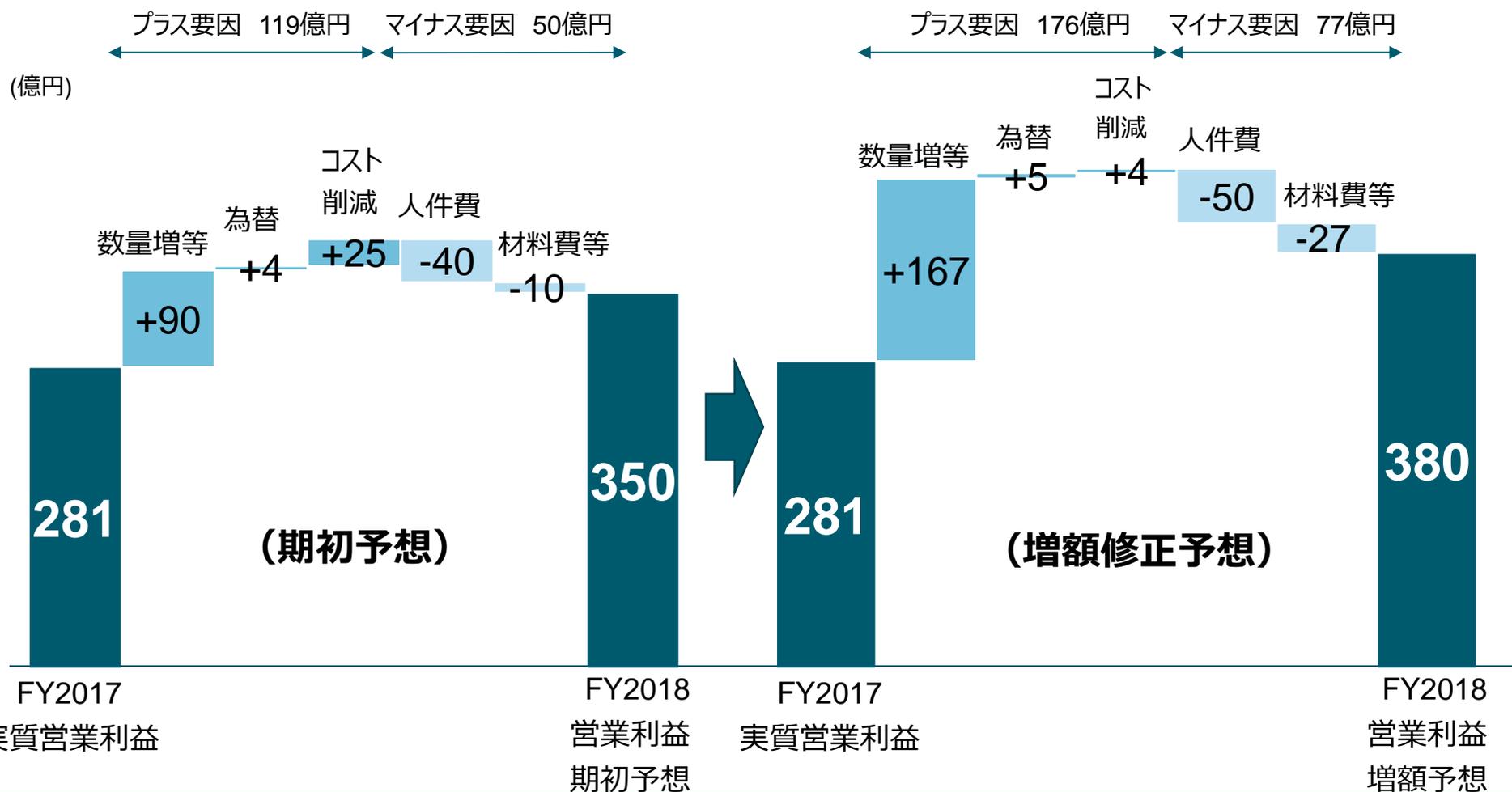
	<b>2017.H1</b>	<b>2018.H1</b>
為替レート： USD/円	112.4	108.7
EUR/円	121.7	131.7



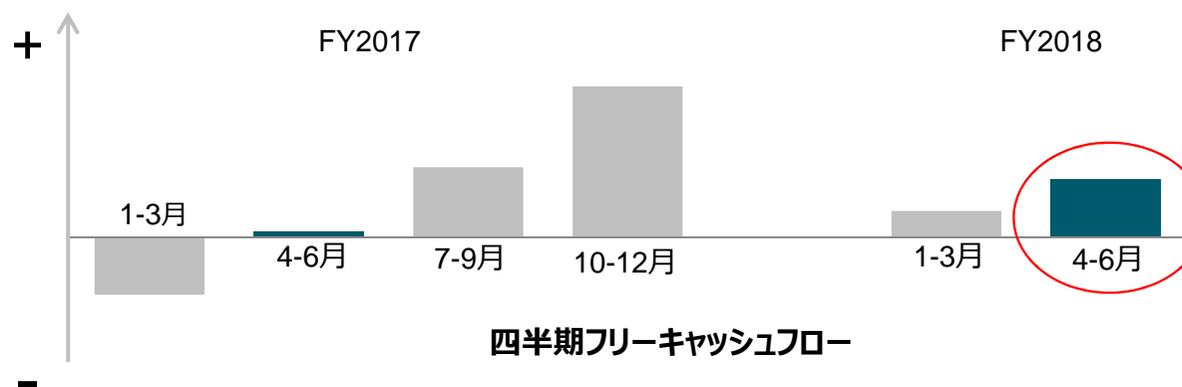
# 2018年度増額修正、増減分析 -期初計画比

(億円)	FY2018(期初)	FY2018(修正)	増減
売上高	4,500	4,700	+200
数量増			+200
為替			+0

	FY2018(期初)	FY2018(修正)
為替レート：USD/円	110.0	110.0
EUR/円	130.0	130.0



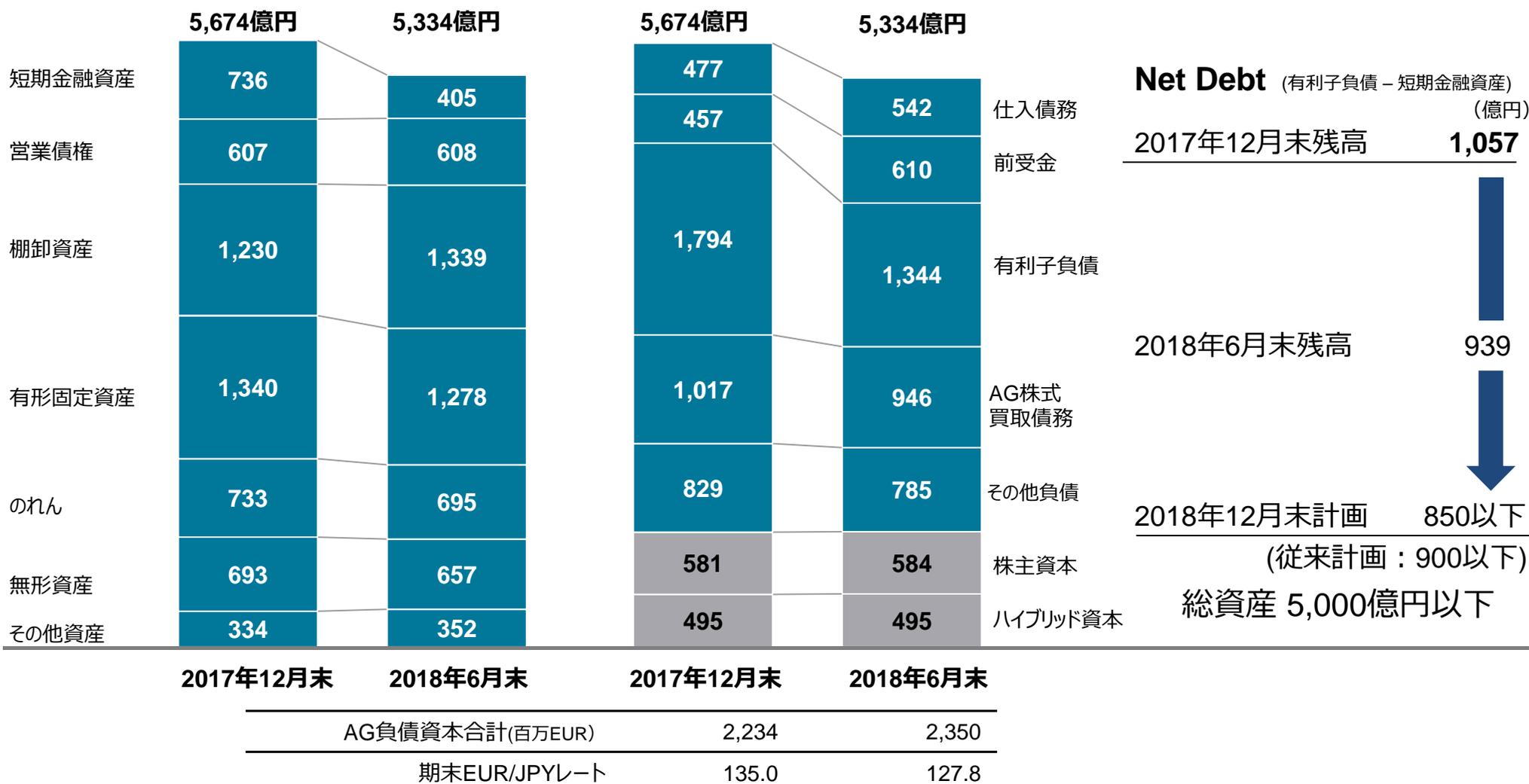
(億円)	FY2017					FY2018		
	Q1	Q2	Q3	Q4	FY	Q1	Q2	H1
<b>営業キャッシュフロー</b>	<b>-78</b>	<b>32</b>	<b>123</b>	<b>238</b>	<b>314</b>	<b>78</b>	<b>135</b>	<b>213</b>
税引前四半期利益	29	40	47	131	248	50	87	136
償却費	44	45	45	50	183	45	45	90
運転資本増減	-69	23	42	46	41	58	18	76
その他	-82	-76	-11	11	-158	-75	-15	-89
<b>投資キャッシュフロー</b>	<b>-21</b>	<b>-20</b>	<b>0</b>	<b>26</b>	<b>-14</b>	<b>-32</b>	<b>-31</b>	<b>-63</b>
(うち有形・無形資産 取得支出)	-16	-22	-26	-30	-94	-30	-37	-68
<b>フリーキャッシュフロー</b>	<b>-99</b>	<b>12</b>	<b>123</b>	<b>264</b>	<b>300</b>	<b>47</b>	<b>103</b>	<b>150</b>



# 総資産を圧縮し、資産効率の改善へ - 貸借対照表サマリー

## 資産の部

## 負債・資本の部



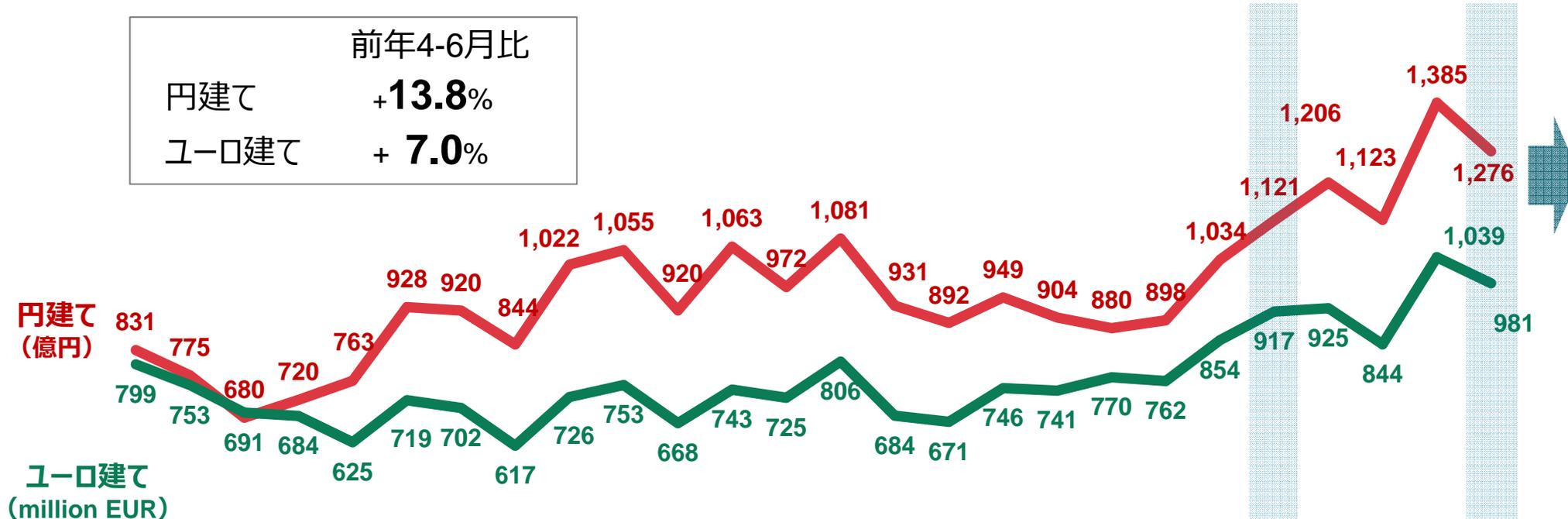
## 1. 上半期(1-6月)決算概要

## 2. 事業環境

## 3. 取り組み

- ✓ 事業領域の拡大 (単価上昇、受注安定化)
- ✓ イノベーションデー盛況
- ✓ Automation・Digitization進展
- ✓ 生産能力の拡充
- ✓ 教育プログラムの強化

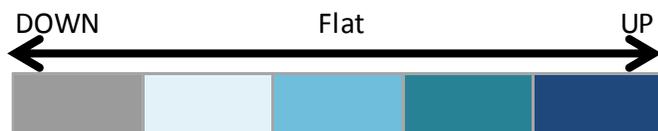
前年4-6月比  
 円建て +13.8%  
 ユーロ建て +7.0%



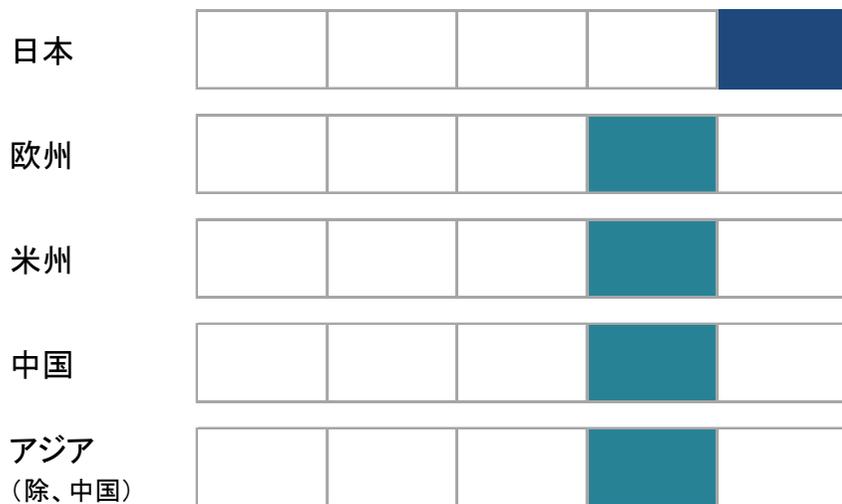
	Jan-Mar CY12	Apr-Jun	Jul-Sep	Oct-Dec	Jan-Mar CY13	Apr-Jun	Jul-Sep	Oct-Dec	Jan-Mar CY14	Apr-Jun	Jul-Sep	Oct-Dec	Jan-Mar CY15	Apr-Jun	Jul-Sep	Oct-Dec	Jan-Mar CY16	Apr-Jun	Jul-Sep	Oct-Dec	Jan-Mar CY17	Apr-Jun	Jul-Sep	Oct-Dec	Jan-Mar CY18	Apr-Jun
為替 USD (円)	79.3	80.2	78.6	81.2	92.4	98.8	99.0	100.5	102.8	102.2	103.9	114.5	119.1	121.4	122.2	121.5	115.5	108.2	102.4	109.3	113.7	111.1	111.1	113.0	108.3	109.1
EUR	104.0	102.9	98.4	105.3	122.0	129.0	131.1	136.7	140.8	140.1	137.8	143.1	134.2	134.2	136.0	133.0	127.2	122.0	114.3	117.8	121.1	122.2	130.4	133.0	133.2	130.1

# 需要概況 (地域別、業種別)

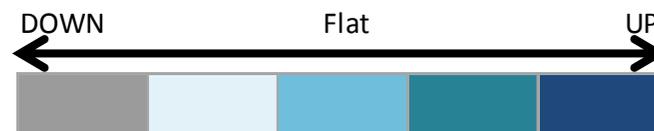
## 地域



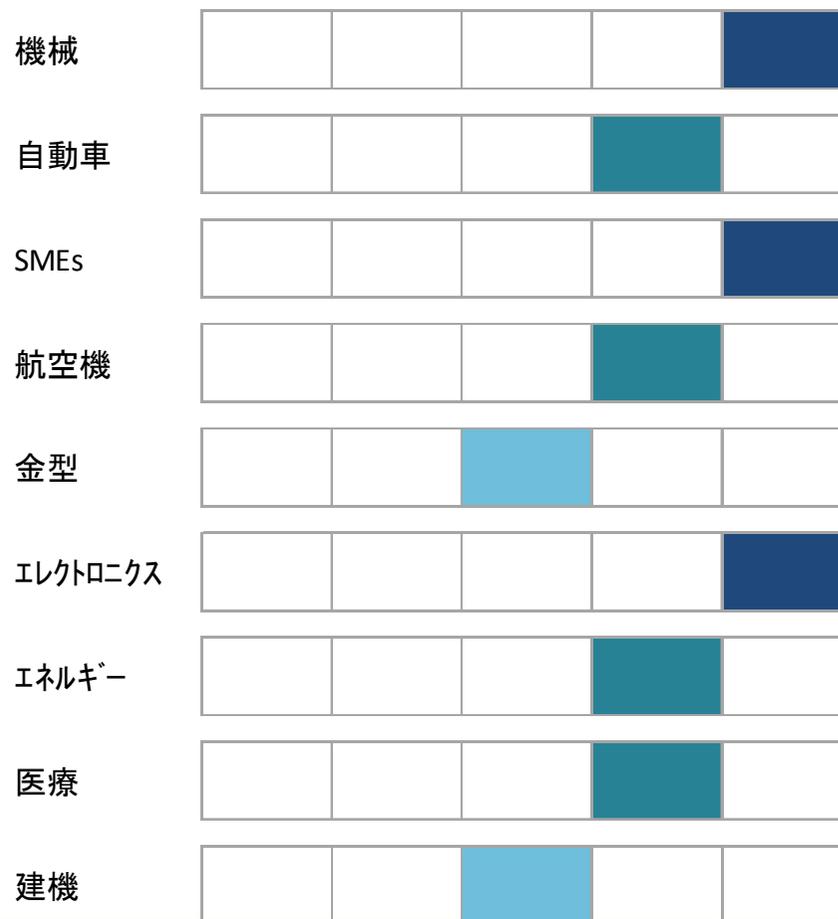
FY2018.Q2



## 業種



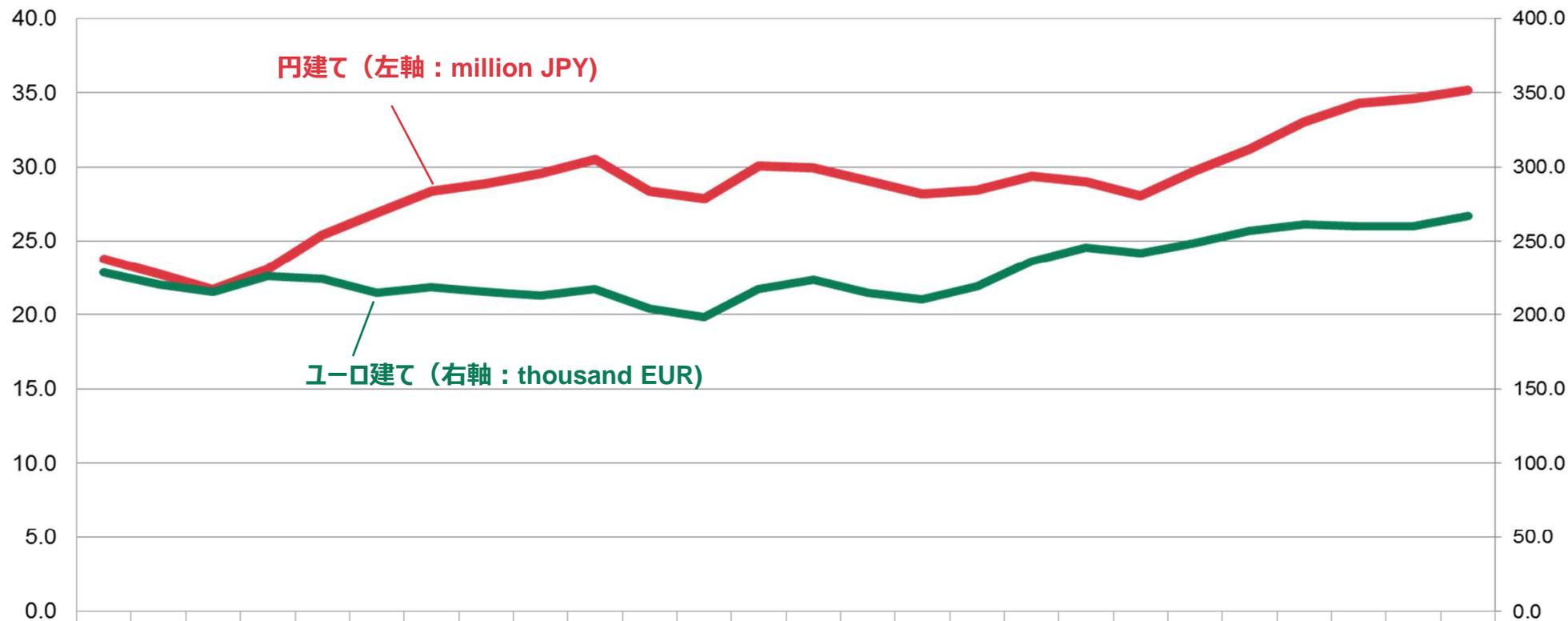
FY2018.Q2



連結受注：機械本体のみ  
6ヶ月移動平均

(million JPY)

(thousand EUR)

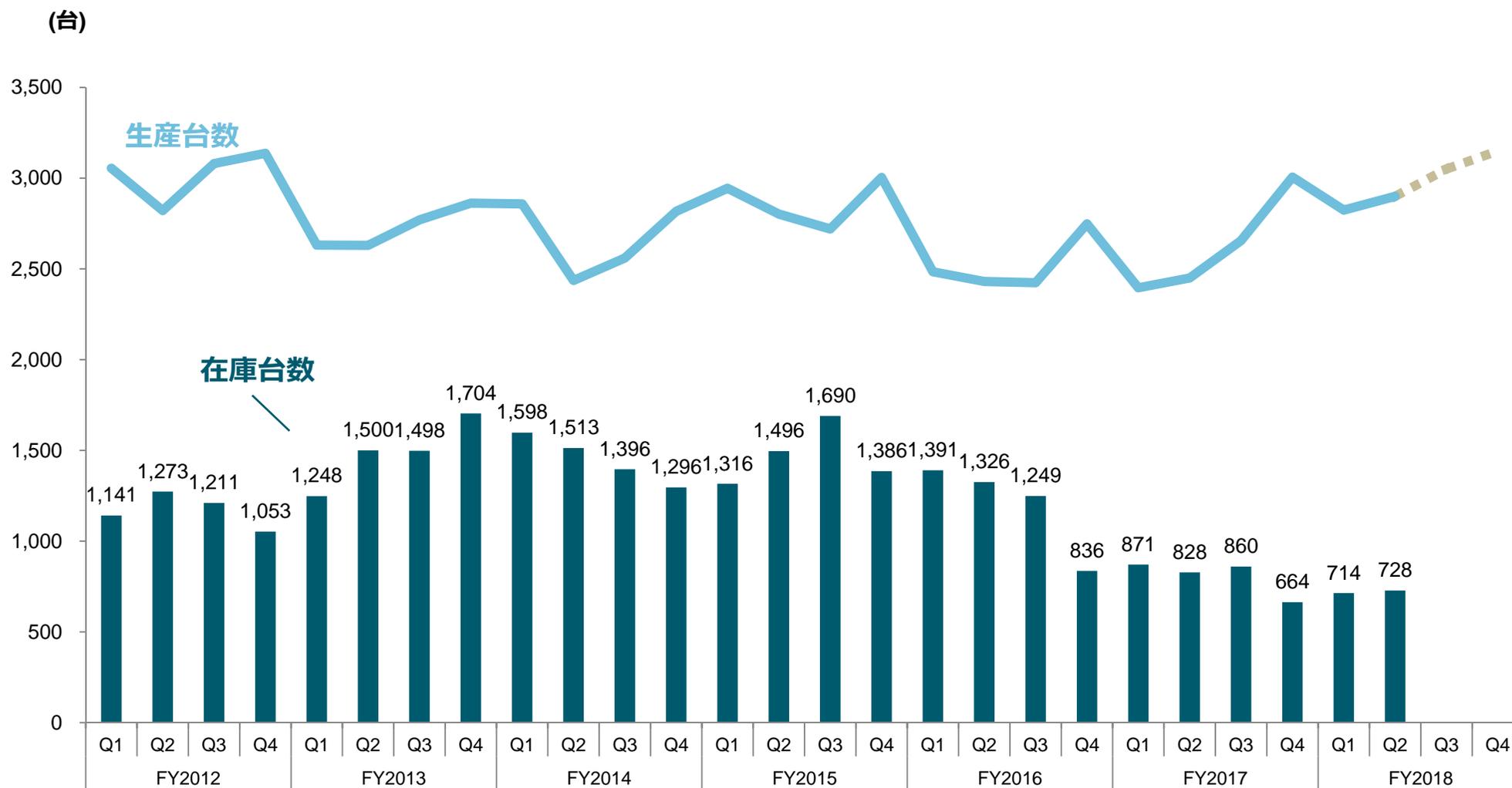


円建て (左軸 : million JPY)

ユーロ建て (右軸 : thousand EUR)

為替  
(円)

	2012				2013				2014				2015				2016			2017				2018		
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
USD	79.3	80.2	78.6	81.2	92.4	98.8	98.9	100.5	102.8	102.2	103.9	114.5	119.1	121.4	122.2	121.9	115.5	108.2	102.4	109.3	113.7	111.1	111.1	113.0	108.3	109.1
EUR	104.0	102.9	98.4	105.3	122.1	129.0	131.1	136.7	140.8	140.1	137.8	143.1	134.2	134.2	136.0	132.5	127.2	122.0	114.3	117.8	121.1	122.2	130.4	133.0	133.2	130.1

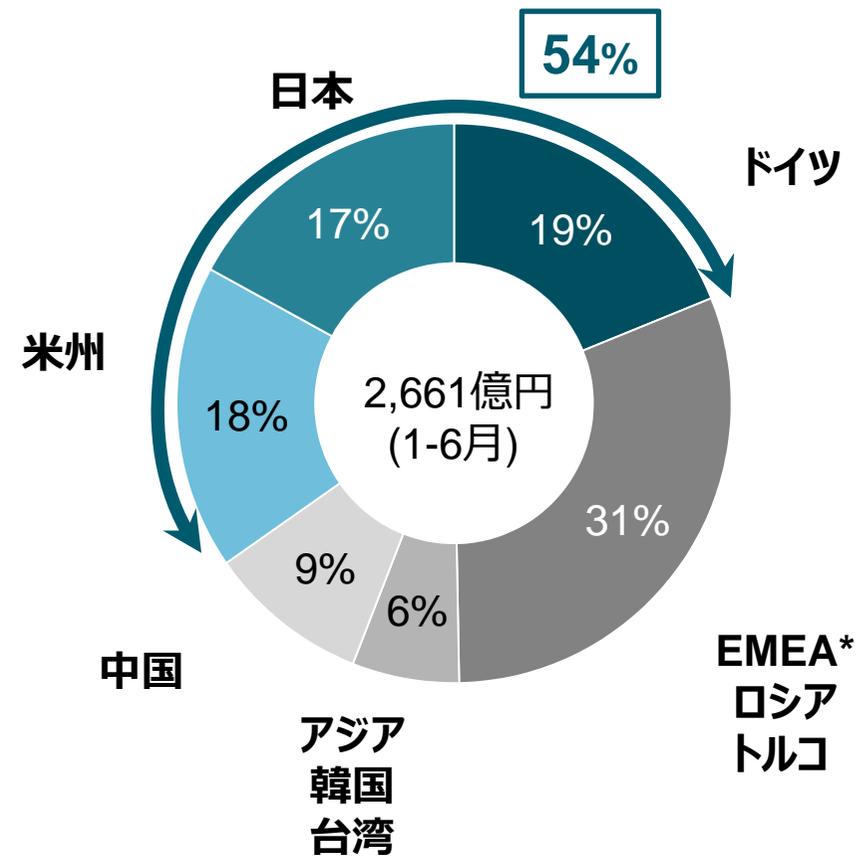
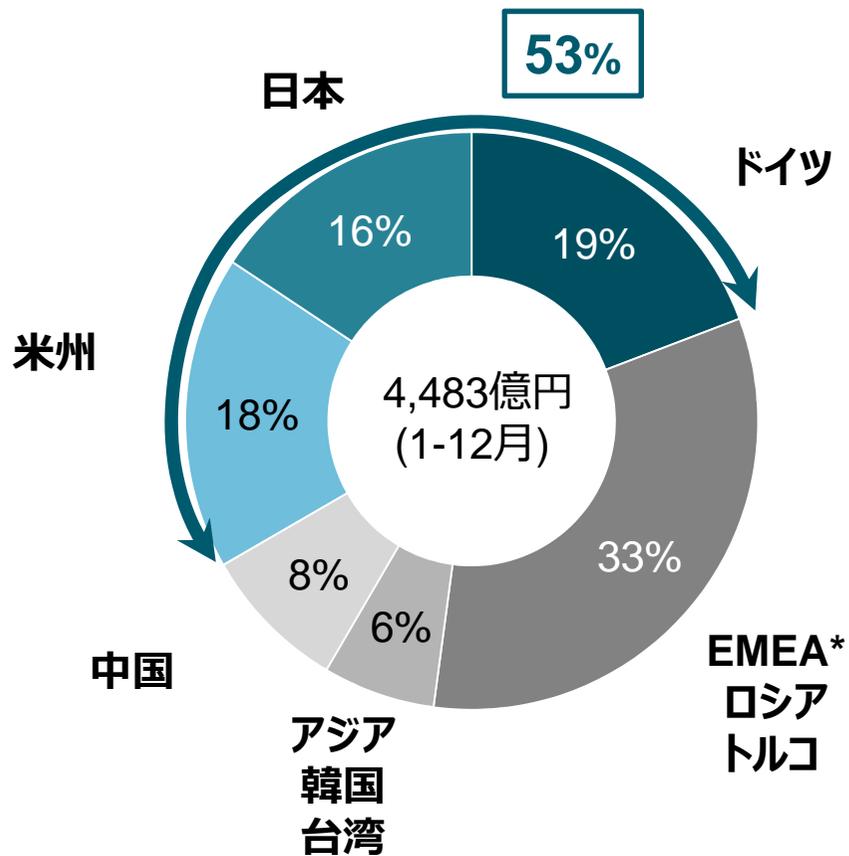


※金額ベース  
※機械本体のみ

## 連結機械受注 FY2017.通期



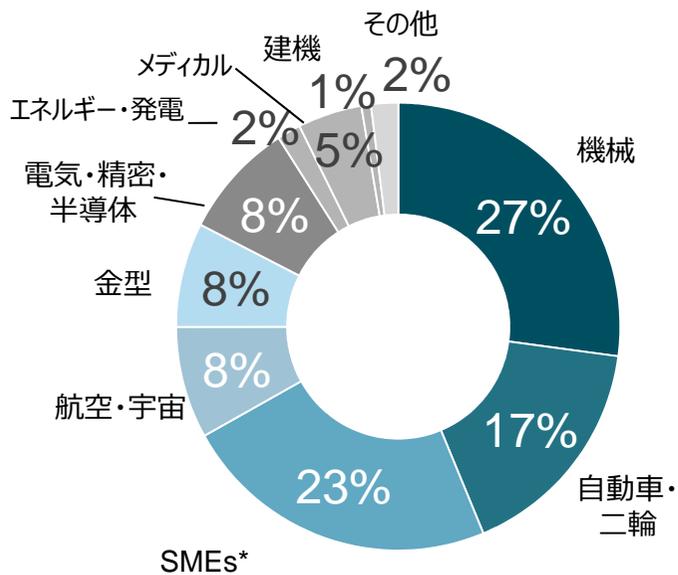
## 連結機械受注 FY2018.上半期



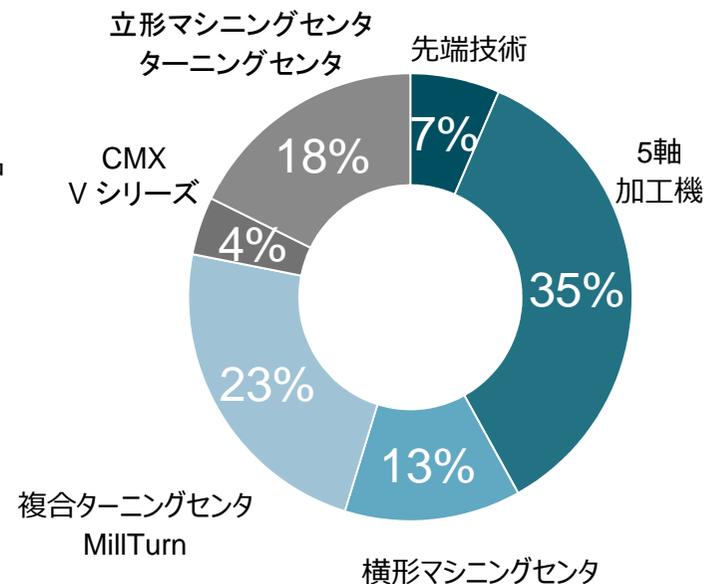
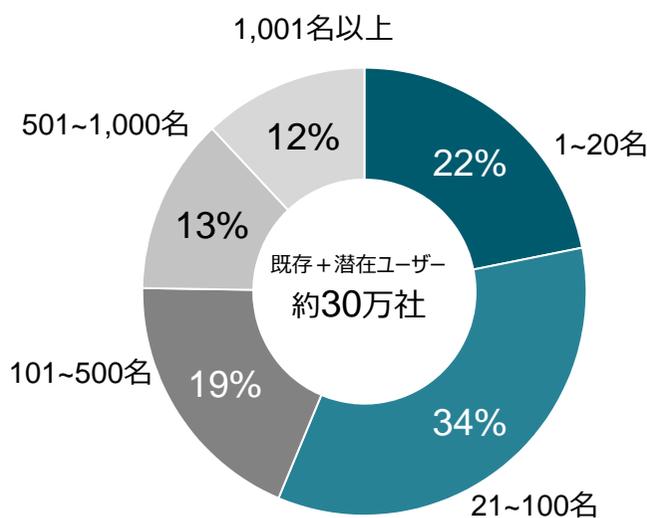
\*Europe, the Middle East and Africa

※金額ベース  
※機械本体のみ

## FY2018.上半期



\*Small and medium-sized enterprises



## 1. 上半期(1-6月)決算概要

## 2. 事業環境

## 3. 取り組み

- ✓ 事業領域の拡大 (単価上昇、受注安定化)
- ✓ イノベーションデー盛況
- ✓ Automation・Digitization進展
- ✓ 生産能力の拡充
- ✓ 教育プログラムの強化

日程： 2018年5月7日-5月10日  
平均単価： 379千ドル (前年比 +7%)

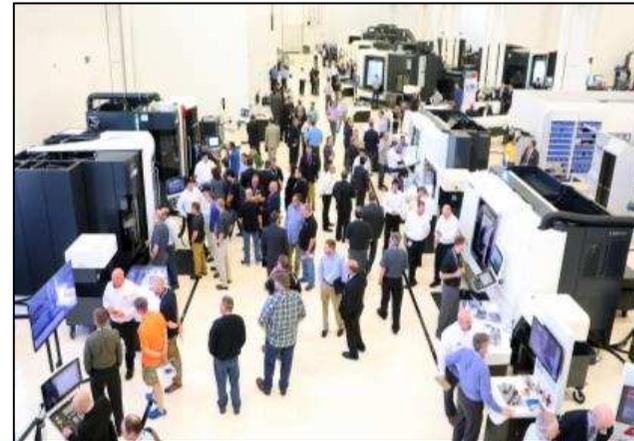
柔軟な自動化、複合加工機による生産性向上、Automation好調



CMX 1100 V  
+ MATRIS



NHX4000Gen3  
+ 21RPP



日程： 2018年5月22日-5月26日  
平均単価： 2,800万円 (前年比 +4%)

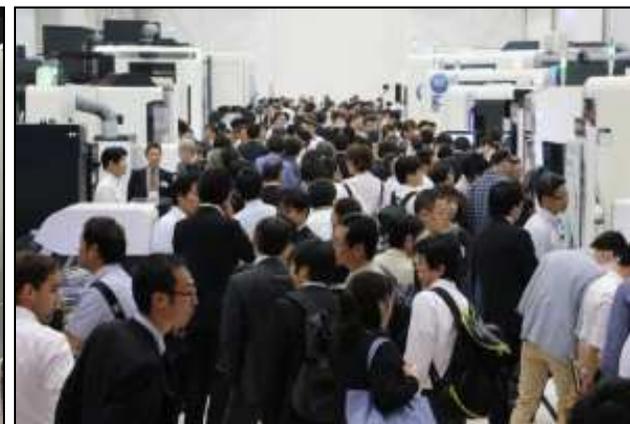
コネクティッドインダストリーズ、AIソリューション好評



MATRIS mini



ALXシリーズ  
コンパクト・高精度＋  
バリエーション豊富な  
ターニングセンタ



日程： 2018年6月26日-6月30日  
平均単価： 271千ユーロ (前年比 +13%)

統合型自動化ソリューション提案好評



NLX2500SY/700  
+Robot

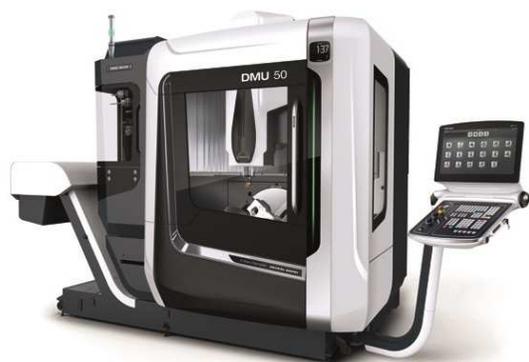


CMX1100Vc  
MATRIS



## 全国70社のお客様に、5軸加工機のスタンダード機 「DMU 50 3rd Generation」70機貸し出し

- ✓ 豊富な経験・知識を備えたエンジニアを毎月2回派遣し、プライベートレッスン
- ✓ 空間精度や加工誤差補正などについての最先端研究を行う大学教授による講演や意見交換会を開催



DMU 50 3rd Generation



5軸加工研究会 8/7発足式の様子

# 5軸加工機 国内普及

## DMG 森精機

### 顧客70社と連携組織

DMG 森精機は国内顧客70社と、工程集約や複雑形状の加工に向く5軸制御工作機械の研究組織を立ち上げた。70社に5軸機を貸し出すとともに技術者を派遣し、近隣の機械加工会社を集めた教育研修を行う。世界の製造業は工程集約の流れにあるが、これに適する5軸機の国内販売比率は10%台と40%前後の欧州、アジアに見劣りする。製造業の国際競争力を保つには、連携組織での活動が不可欠と判断した。

(編集委員・六笠友和)

「ものすごい危機感 加工に適するだけではない。DMG 森精機はこれまで複数の工場の森精機社長は5軸工作機械に分かれていた加工を、1台・1度の加工対象物(ワーク)の据え付けで完了できる。5軸機は複雑形状の加工に適用するだけでなく、近隣の機械加工会社を集めた教育研修を行う。世界の製造業は工程集約の流れにあるが、これに適する5軸機の国内販売比率は10%台と40%前後の欧州、アジアに見劣りする。製造業の国際競争力を保つには、連携組織での活動が不可欠と判断した。」

DMG 森精機は国内顧客70社と、工程集約や複雑形状の加工に向く5軸制御工作機械の研究組織を立ち上げた。70社に5軸機を貸し出すとともに技術者を派遣し、近隣の機械加工会社を集めた教育研修を行う。世界の製造業は工程集約の流れにあるが、これに適する5軸機の国内販売比率は10%台と40%前後の欧州、アジアに見劣りする。製造業の国際競争力を保つには、連携組織での活動が不可欠と判断した。

連携組織の発足で5軸加工機の新しいチームを巻き起こすことと呼びかけるDMG 森精機社長

### 日本の国際競争力 維持

生産品と少量生産品の二極化が予想される。少量品は工程集約、つまり5軸機に専用機などから置き換わりそうだが、ただ、3軸機への慣れや5軸機を操作する不安、計測、精度などが導入の壁だ。

設立した「5軸加工研究会」では、DMG 森精機の技術者が毎月2回出向き、集まった周辺工場従業員に個別指導するほか、顧客の操作者育成を支援する。他にも研究者による講演や意見交換会を開く予定だ。

7日に開いた発足式で森社長は、「一緒に新しいチームをこの国で巻き起こしたい」と、集まった70社に呼びかけた。

車部品は電気自動車(EV)シフトで大量がある。

連携集約などの利点

車部品は電気自動車(EV)シフトで大量がある。

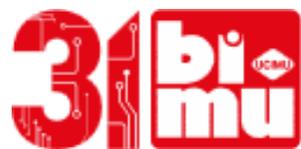
(出典：2018年8月8日 日刊工業新聞記事)



2018年9月18日-9月22日  
(シュツットガルト, ドイツ)



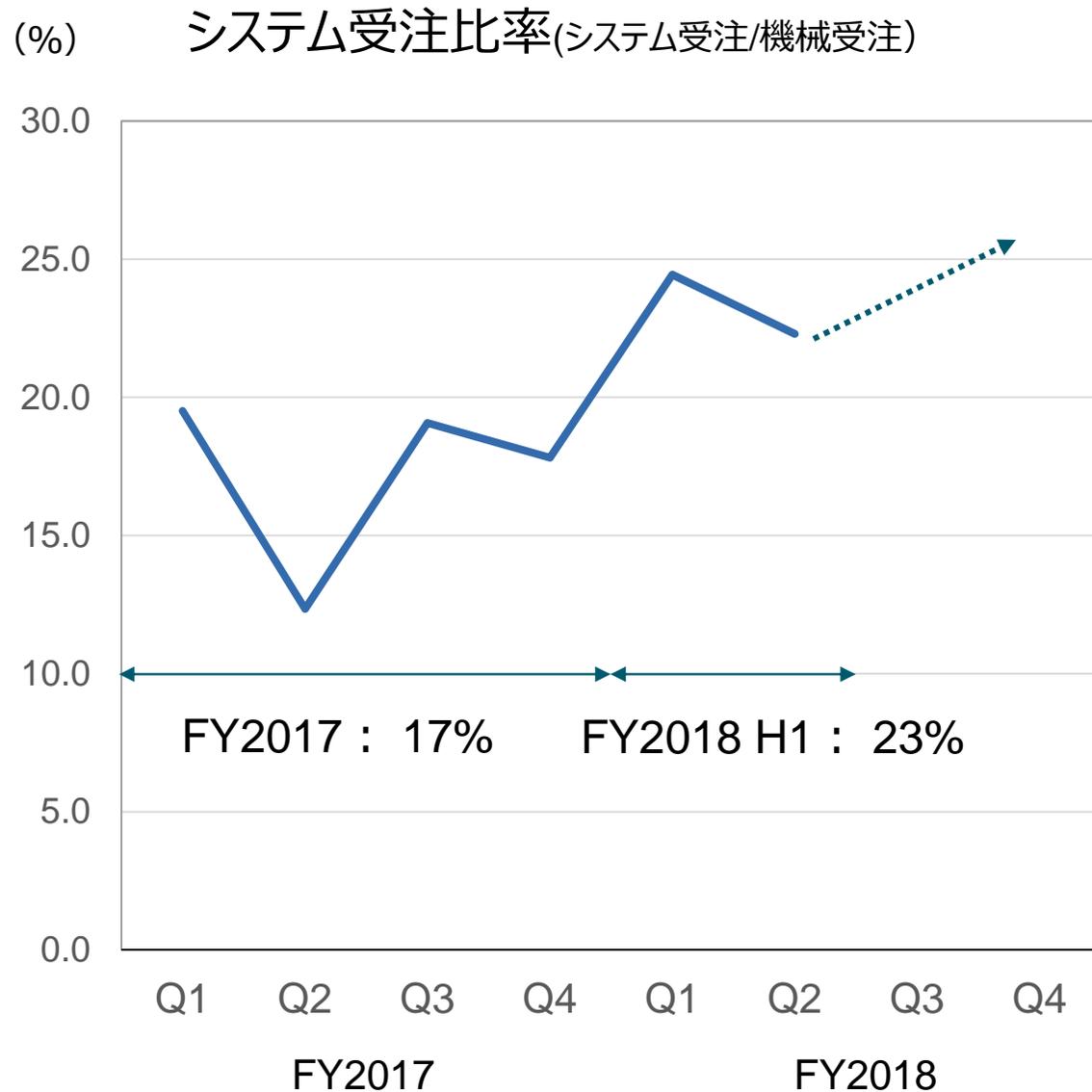
2018年9月10日-9月15日  
(シカゴ, アメリカ)



2018年10月9日-10月13日  
(ミラノ, イタリア)



2018年11月1日-11月6日  
(東京, 日本)



## 157 機種 40 種類 標準自動化システム

Work piece handling

ワークハンドリング



MATRIS

MATRIS mini



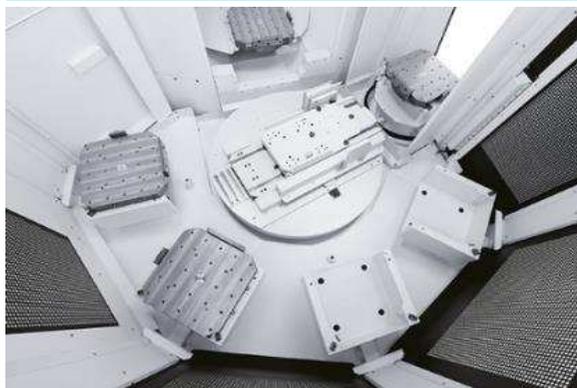
In-machine Robot



GX Loader

Pallet handling

パレットハンドリング



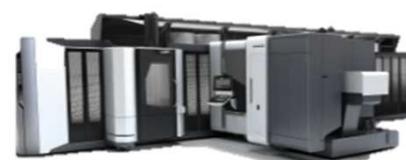
CPP



RPP



AWC



LPP



RS



PH

## MATRIS “Module Automation Transfer Robot Intelligence System”

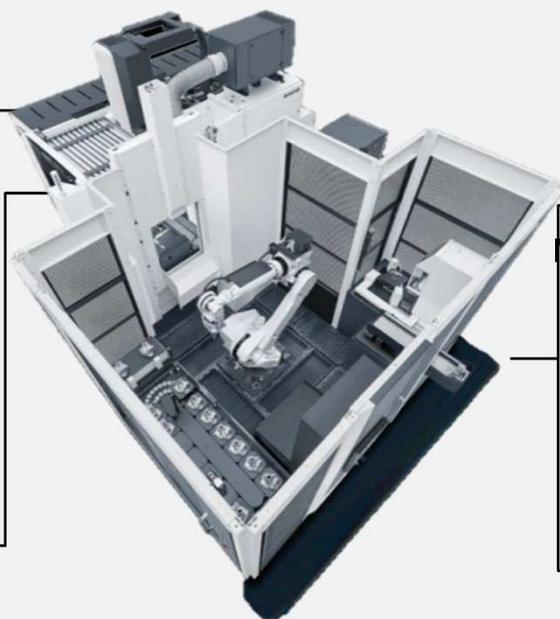
CO machine



AG machine



\*SIEMENS仕様可



MAPPScnected



ストッカ  
Stocker



シュータ  
Chute



計測  
Measuring



洗浄  
Washing



ビジョン  
Vision



Open Innovation

## 最新鋭の自動倉庫・工場内物流設備・IoTを導入



バケット式自動倉庫



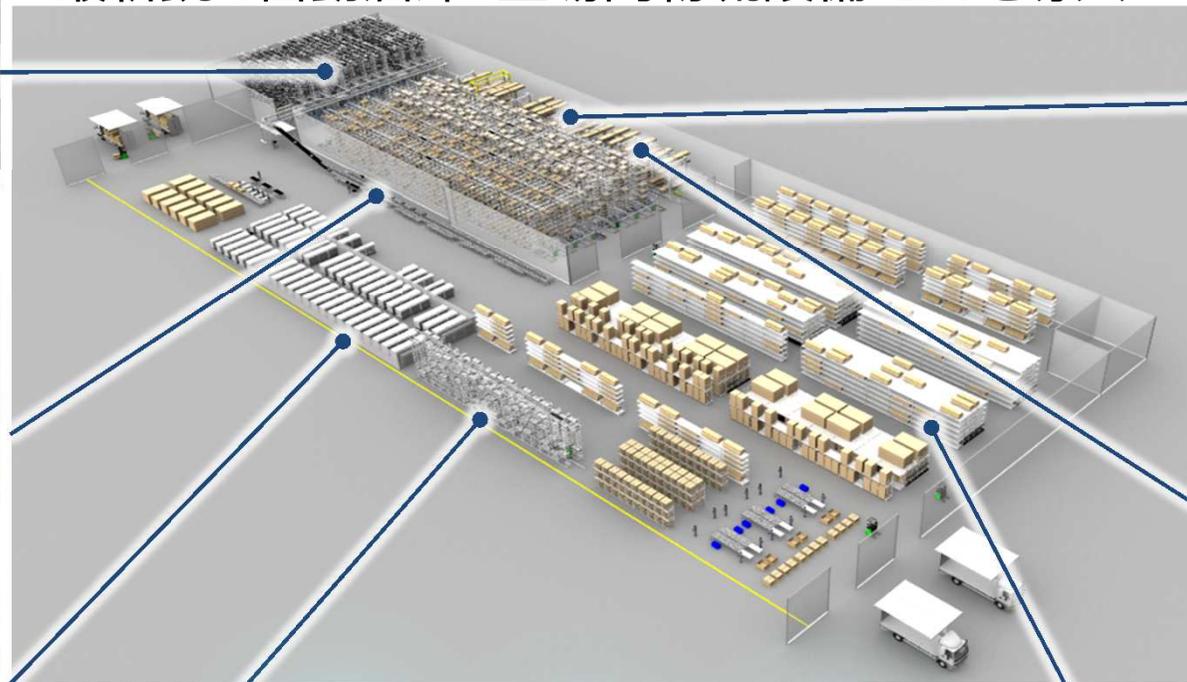
ケースコンベヤライン



中軽量ラック



小物長尺用自動倉庫



パレット式自動倉庫



ガントリー式自動倉庫



移動ラック



ゲレーツリート  
(ドイツ)



伊賀  
(日本)



ダラス  
(USA)

24時間以内パーツ発送率**95%**  
更なる体制強化



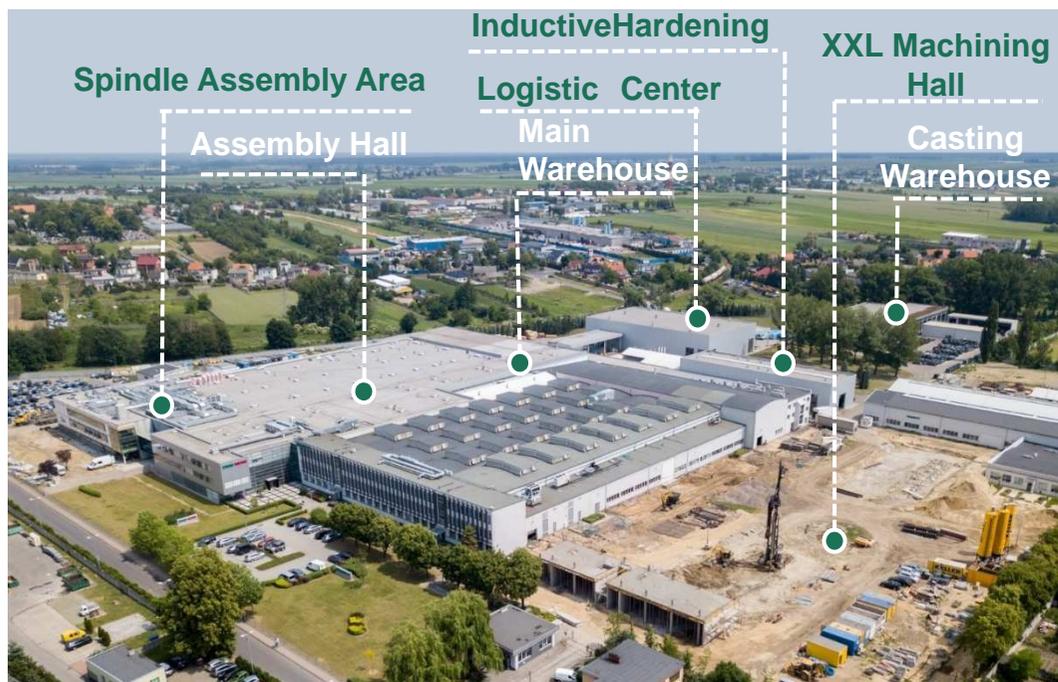
## 主要製品

monoBLOCK series  
duoBLOCK series  
Portal machines

## 拡張エリア（増分）

- ✓ Production: 10,000 m<sup>2</sup>
- ✓ Technology Center: 2,000 m<sup>2</sup>
- ✓ Customer Center: 1,000 m<sup>2</sup>  
etc.
- ✓ Total add. Space: ~ 24,000 m<sup>2</sup>





## 主要製品

CLX/CMX series 7 model

## 拡張エリア

(増分)

- ✓ Assembly: 6,900 m<sup>2</sup>
- ✓ Machining: 6,100 m<sup>2</sup>
- ✓ Induct. Hardening: 1,100 m<sup>2</sup>  
etc.
- ✓ Total add. space: ~ 22,000 m<sup>2</sup>



new Assembly Hall / 2018



new Spindle Assembly Area / 2018



new Inductive Hardening / 2017



Main Warehouse Modernization / 2017

## 生産能力

- ✓ 年間**1,200**台→**+40%目標**
- ✓ 年間主軸生産**1,500**本→**倍增目標**

## 【東京デジタルイノベーションセンター概要】

開設時期 : 2018年6月1日  
住所 : 東京都江東区枝川 3丁目 1-4  
面積 : 7,326㎡ 5階建て

## DMG森精機グループ会社の本拠地

- ✓ DMG森精機 (センサ・ソフトウェア開発部門)
- ✓ マグネスケール
- ✓ サキコーポレーション
- ✓ ビー・ユー・ジーDMG森精機
- ✓ テクニウム
- ✓ 先端技術研究センター



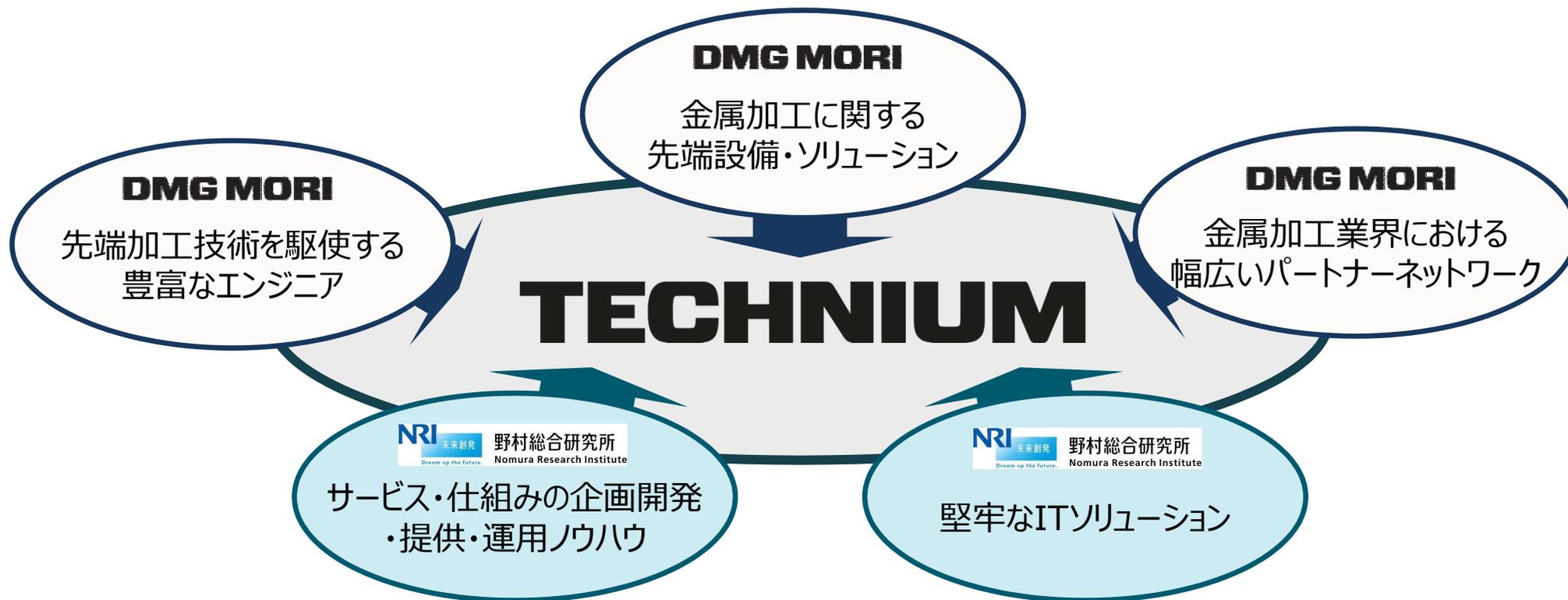
東京デジタルイノベーションセンター外観

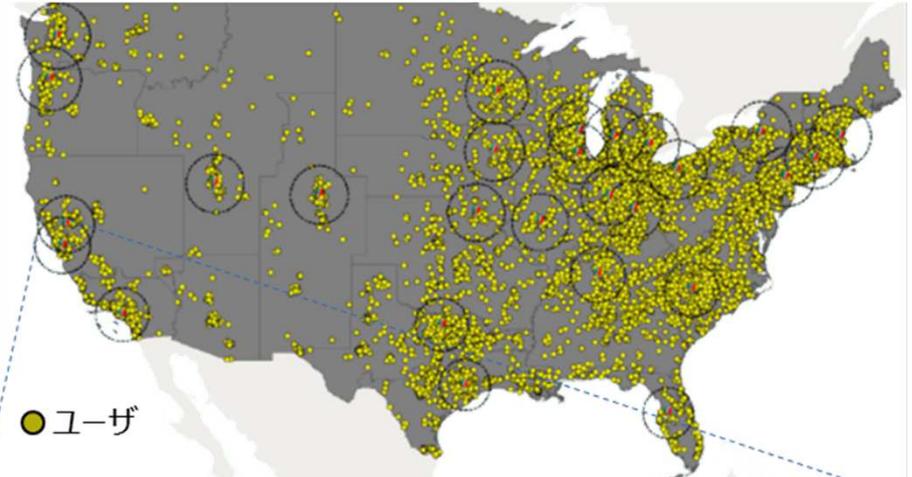


サービスとオペレータ教育のためのデジタルプラットフォーム

- ✓ IT生産支援
- ✓ 加工エンジニアリング→
- ✓ 人材教育

会員制Webサイトによるサービス  
当社データベースによる**最適加工プログラム作成**  
**お客様設備・経験に応じた**トレーニングサービス





**Silicon Valley Technical Center**  
47338 Fremont Blvd, Fremont, CA 94538

## DMG MORI アカデミー (伊賀)

### エンジニア育成プログラム

- ✓ 研修用機械を42台設置(アカデミー内)
- ✓ 若手100名超のアプリケーションエンジニアを養成
- ✓ 3年間のコースで全機種種の操作を習得



## DMG MORI Leadership Program

### リーダー養成研修

- ✓グループ全体での人材開発と組織開発
- ✓米国、カナダ、メキシコ、ブラジル、日本、インドより  
累計2期60名が受講
- ✓集合研修 2.5日 を四半期毎に4回実施



## DMG MORI

AKTIENGESELLSCHAFT



## AG社監査役会 (全12名)



**Dr. Masahiko Mori**  
Chairman of the Supervisory Board



**Ulrich Hocker**  
Presid. of Dt. Schutzv. für Wertpapierbesitz



**James Nudo**  
President DMG MORI USA



**Irene Bader**  
Director DMG MORI Global Marketing



**Prof. Dr.-Ing. Berend Denkena**  
University Hannover



**Prof. Dr. A. Köhler**  
University Duisburg-Essen



**Mario Krainhöfner**  
Chairman of the Group Works Council



**Stefan Stetter**  
Representative of Senior Managers



**Larissa Schikowski**  
Member of the Works Council\*



**Michaela Schroll**  
Member of the Works Council\*\*



**Tanja Fondel**  
Union Secretary, IG Metall Manag. Board



**Dietmar Jansen**  
1<sup>st</sup> Director and Treas. IG Metall, Allgäu

当資料には、当社の目標、計画などの将来に関する記述が含まれております。  
これらの将来に関する記述は、  
当社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいております。  
今後の経営方針転換、外部要因の変化により、将来的に実際の業績と大きく異なる可能性があります。  
なお、不確定性および変動可能性を有する要素は多数あり、以下のようなものが含まれます。

- 為替相場の変動
- 当社が営業活動を行っている市場内における法律、規制及び政府政策の変更
- タイムリーに新商品を開発し、市場に受け入れられるようにする当社の能力
- 当社が営業活動を行っている市場内における政治的な不安定さ
- 独禁法等関連する法規制又はその所轄当局による運用の変更